

## — カレッジ卒業のドリ、キアミ分校に赴任—

St. ガブリエルの学生寮でハイスクール生徒達の兄貴役を務めていたDorry(倉田さん支援)が、この3月に晴れてノートルダム・マーベル大学の英文科を卒業し、さっそく赴任予定のキアミに向かいました(新学期は6月)。

15号で紹介のように、キアミは橋のない川を36回渡るという僻地のため、ピラーン族ではあっても、マーベル市郊外のボルルール出身の彼には大きな試練となるでしょう。後に続く後輩のためにがんばって欲しいと思います。

Dorryが赴任予定のキアミは、会員の皆様のご協力でカラバオや給食支援、さらにコーン種子などの支援も始めた地域で、今回ぜひとも分校や生活協同組合を訪ねたかったのですが、トラックの荷台まで水をかぶるほど増水した川を渡るのは私たちには無理、との判断で断念しました。

カラバオ資金にご協力下さった皆様、給食やコーン種子等についてご支援下さった笠井さんには、次回、現地からの情報入手を待って報告させていただきます。

(山崎)



前列右から3番目ドリ

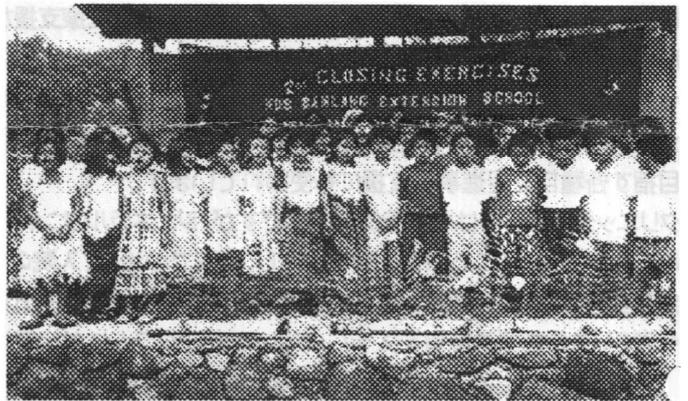
## — その他の奨学生もそれぞれ卒業、終了の式に臨みました。—

### アトゥモロックの卒業式

(左からメリタ、ナンシー、マリセル、リヌヤ、ロミオ、ルディ)  
ルディは勝又さん、リヌヤは甲斐さん、その他の4名は高橋さんご支援の奨学生です。



### 開校後2回目の終了式:サムラング分校



※写真は入手できませんでしたが、ボルルール、ラムアフス(ラムブノン)小学校でもそれぞれ無事卒業生を送り出しました。ご支援ありがとうございました。  
※篠原さん支援のロントも、車関係技術専門学校を卒業しました。即戦力として期待されます。

## — 40年近い歴史に幕を下ろすCMBのボルルール小学校—

1950年代末に、CMBによってピラーン族への支援が開始されて以来、その中心であったマーベル市のボルルール・コミュニティーでは、この3月に完全にCMBの小学校(Notre Dame of Bolul)が閉鎖され(昨年度は5,6年生のみ残した)、地域のピラーン族の初等教育は完全に公立小学校が担うことになりました。(ボルルールの校舎については、技能訓練校など、ピラーン族青少年の教育施設として利用される計画と聞いています)  
CMBとしては今後、公立がないところ、あっても非先住民族の教師が定着せずに閉鎖されていた地域で6つの分校を引き続き運営して行く予定です。私たちも奨学金支援を通して、このような教育行政が行き届かない僻地のコミュニティーでの教育普及を支えたいと思いますが、ここにきて難問が持ち上がりました。

DECS(日本の文部省に当たる省庁)の認可基準が厳しくなったことです。これまでボルルール小学校だけがその基準に達していた、その他(サウスコタバト州2校、サランガニ州4校)はボルルール本校の分校として認められていたのですが、6月からの新年度には、サウスコタバト、サランガニ州別々に、本校を一つずつ認可されないと、両州に散在するCMBの初等教育施設は、卒業生を出しても正式に認められない惧れがでてきました。  
サウスコタバト州のラムアフス(ラムブノン)と、サランガニ州のアトゥモロックでは、DECSの施設チェックに備えて、急遽コングラスと竹で家庭科室を建てたり、伝統工芸館を図書室に模様替えして対処しています。ラムブノンは昨年度のFIDRの助成により、教室が整備されました。生徒数が多いアトゥモロックの教室増築に関しては、教師の給与改善問題も抱えて資金難のCMBに対し、当会もできる範囲で協力することにしました。労務費節約には、住民達のほか一般市民のボランティアを募集したいとのこと。DECS認可の朗報が待たれます。(山崎)